

多核ネットワーク型都市構造の確立を目指し、 環境に配慮した快適で魅力ある都市づくり

計画概要

◆ **計画期間** 平成28年度（変更前は平成28年度～平成32年度）

◆ **交付対象** 豊田市、愛知県

◆ 計画の目標

【賑わいと魅力ある都心づくり】

- ・豊田市中心市街地活性化基本計画に位置付けられている区域において、賑わいの創出、安全・安心・快適な歩行空間の確保及び交通の円滑化を図る。

【鉄道駅などを中心としたコンパクトシティの実現】

- ・豊田市は、合併を重ね広大な市域と分散した市街地を抱える課題を踏まえ、地域ごとの課題や特性に応じて都市機能や生活機能を集積・維持集約する地域・拠点において、地域核整備、定住促進（駅周辺地区）等の取組みを総合的かつ集中的に進めることで、活力あるまちづくりの実現を目指す。

【市街地における緑の拠点の確保】

- ・「水と緑につつまれたものづくり・環境先進都市」を実現させるため、緑が不足する市街地において、環境に配慮した緑の拠点をなる公園を整備し、環境負荷低減を図る。
- ・緑の拠点である都市公園の継続的な機能維持のため、「豊田中央公園施設長寿命化計画」に基づき公園施設の改築を実施し、適切な管理による安全・安心の確保や公園施設に係るトータルコストの低減を図る。

多核ネットワーク型都市構造の確立を目指し、 環境に配慮した快適で魅力ある都市づくり

計画概要

◆計画の成果目標（定量的指標）

- 指標①：中心市街地の歩行者交通量の増加
現況値（H26）65,410 人／日 ⇒ 目標値（H32）73,913 人／日
- 指標②：区画整理区域内の居住人口の増加
現況値（H28）3,272 人 ⇒ 目標値（H32）4,384 人
- 指標③：市民意識調査における「生活環境の向上」への満足度向上
現況値（H28）40.7 % ⇒ 目標値（H32）44.1 %
- 指標④：藤岡支所・藤岡交流館の年間利用者数の増加
現況値（H28）84,000 人 ⇒ 目標値（H32）100,000人
- 指標⑤：都市公園整備に伴うCO₂吸収量の増加
現況値（H28）0 kg-CO₂ ⇒ 目標値（H32）2,560.9 kg-CO₂
- 指標⑥：公園施設長寿命化計画に基づく、公園施設の更新率の拡大
現況値（H28）0 % ⇒ 目標値（H32）100 %

評価内容

◆交付対象事業の進捗状況【事業数ベース】

交付対象事業	事業費※	事業の実施状況	進捗率※
A 基幹事業 (全17事業)	11,514百万円 (16,462百万円)	市街地再開発事業、土地区画整理事業、街路事業、都市再生整備計画事業、公園事業を実施し、概ね計画通りの進捗となった。当初は5か年の整備計画であったが、制度見直しによりH28年度のみ計画としたため、1事業は次期計画で実施することとした。	94.1%
B 関連社会資本整備事業 (全1事業)	22百万円 (28百万円)	市街地再開発に併せた道路整備事業を実施し、計画通りの進捗となった。	100%
C 効果促進事業 (全1事業)	2百万円 (2百万円)	区画整理区域内の駐輪場整備に関わる調査委託を実施し、計画通りの進捗となった。	100%
合 計	16,492百万円		

※事業費は交付対象事業費の実績額。()内は整備計画策定時の交付対象事業費

※進捗率(%)は各事業の計画に対する実施割合(事業数ベース)

評価内容

◆ 定量的指標の達成状況

指標① 中心市街地の歩行者交通量の増加

当初現況値	65,410人/日	目標値と実績値に差が出た要因	本整備計画の計画期間（平成28年度）では、施工途中であったため、歩行者交通量の増加目標を達成することができなかった。事業完了となる次期計画期間で目標達成を見込む。
最終目標値	73,913人/日		
最終実績値	65,410人/日		

指標② 区画整理区域内の居住人口の増加

当初現況値	3,272人	目標値と実績値に差が出た要因	平成28年度は、建物補償の最盛期であり、一時的に地区外へ転居する地権者が多かったため、目標設定時よりも人口が減っている。本来の計画期間（～H32）であれば相当量の宅地が提供できているため、次期計画期間での人口増加を見込む。
最終目標値	4,384人		
最終実績値	3,206人		

指標③：市民意識調査における「生活環境の向上」への満足度向上

当初現況値	40.7%	目標値と実績値に差が出た要因	平成29年度より他計画へ移行したため、現時点で最新の市民意識調査を用い評価を実施した。最終目標を達成することはできなかったが、中間目標としていた42.9%を上回る満足度を得ることができた。要因としては、施工中の区画整理事業が最盛期を迎えており、公共施設の整備が急速に進んだため、市民満足度が増進したものと考えられる。
最終目標値	44.1%		
最終実績値	43.4%		

評価内容

◆ 定量的指標の達成状況

指標④ 藤岡支所・藤岡交流館の年間利用者数の増加

当初現況値	84,000人	目標値と実績値に差が出た要因	都市再生整備計画事業の期間が平成32年度までであり、整備の途中で別計画へ移行することとなったため、本整備計画期間内においては、利用者数に変化は見られなかった。次期整備計画にて利用者数の増加を見込む。
最終目標値	100,000人		
最終実績値	84,000人		

指標⑤ 都市公園整備に伴うCO₂吸収量の増加

当初現況値	0kg-CO ₂	目標値と実績値に差が出た要因	平成28年度においては、CO ₂ 吸収源である高木の植栽を実施していないため、CO ₂ 吸収量に変化は生じない。次期整備計画にて目標の達成を見込む。
最終目標値	2560.9kg-CO ₂		
最終実績値	0kg-CO ₂		

指標⑥ 公園施設長寿命化計画に基づく、公園施設の更新率の拡大

当初現況値	0%	目標値と実績値に差が出た要因	平成28年度に策定された公園施設長寿命化計画に基づき、中央公園（豊田スタジアム）の施設更新が計画通り実施され、目標の更新率は達成された。
最終目標値	100%		
最終実績値	100%		

◆事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する交付対象事業の効果の発現状況①

■ 関連する成果目標（定量的指標）

指標①：中心市街地の歩行者交通量の増加

現況値（H26）65,410 人／日 ⇒ 目標値（H32）73,913 人／日

【目標達成に資する事業】

- ・ 豊田市駅前通り北地区第一種市街地再開発事業
- ・ 豊田市駅前通り北地区市街地再開発（（都）昭和町線）
- ・ 市道豊田市駅前東歩行者道2号線外1路線整備事業 始め4事業

豊田市駅前通り北地区第一種市街地再開発事業



整備前



整備後
(施行中)

豊田市駅前通り北地区市街地再開発（（都）昭和町線）



整備前



整備後
(施行中)

◆事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する交付対象事業の効果の発現状況①

■ 事業効果

- ・ 豊田市駅を中心として新たな市街地形成の基盤が整備されることで、昼夜間人口の拡大および中心市街地の活性化、交通環境ならびに都市防災機能の向上等を図ったが、現整備計画期間内（H28単年）では、すべて施行中となっており、次期整備計画での効果発現を図る。

■ 目標指標以外の事業効果（補完指標）

① 豊田都心地区内の居住人口

※ 挙母地区の4月1日現在の居住人口

130,597人 ⇒ 132,948人
(H27年) (H29年)

② 豊田都心地区内の鉄道利用者数

※ 豊田市駅、新豊田駅の乗降客数の合計

46,514人 ⇒ 49,996人
(H27年度) (H29年度)

③ 都心に賑わいを感じる割合

※ 第20回、21回市民意識調査結果より

25.0% ⇒ 25.7%
(第20回) (第21回)



都心地区の賑わいの様子

◆事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する交付対象事業の効果の発現状況②

■ 関連する成果目標（定量的指標）

指標②：区画整理区域内の居住人口の増加

現況値（H28）3,272人 ⇒ 目標値（H32）4,384人

指標③：市民意識調査における「生活環境の向上」への満足度向上

現況値（H28）40.7% ⇒ 目標値（H32）44.1%

【目標達成に資する事業】

- ・（都）豊田則定線（高橋）
- ・豊田土橋都市再生区画整理事業
- ・豊田平戸橋地区（区6-1号線外） 始め11事業

（都）豊田則定線（高橋）



整備前



整備後

◆事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する交付対象事業の効果の発現状況②

■事業効果

- ・（都）豊田則定線（高橋）のI期線（下流側橋梁の2車線）を供用し、狭小な車道・歩道を一部改善することにより、安全・安心な歩行空間の確保及び交通の円滑化に寄与することができた。
- ・すべての区画整理事業は、施行中ではあるものの、道路や橋梁等の都市基盤を進めることにより、交通環境の改善および都市防災機能の向上を図ることができた。

■目標指標以外の事業効果（補完指標）

市民意識調査において、以下の問いに対し満足していると回答をした割合

※第20回、21回市民意識調査結果より

①市民生活や企業活動を支える自動車が円滑に走る道路が整っているまち

19.2% ⇒ 25.0%

②快適な生活ができる市街地が整備されたまち

13.4% ⇒ 13.5%



施行中の四郷駅周辺土地区画整理事業

◆事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する交付対象事業の効果の発現状況③

■ 関連する成果目標（定量的指標）

指標④：藤岡支所・藤岡交流館の年間利用者数の増加

現況値（H28）84,000人 ⇒ 目標値（H32）100,000人

【目標達成に資する事業】

- ・ 藤岡地域核地区都市再生整備計画事業



整備前



整備後
(施行中)

◆事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する交付対象事業の効果の発現状況③

■ 事業効果

- ・ 藤岡支所・交流館を始めとする行政関係機関が集約され、地域の中核拠点が整備されることで、地域のふれあいと賑わいの創出を図るが、現整備計画期間内では完了できないため、次期整備計画期間内での効果発現を図る。

■ 目標指標以外の事業効果（補完指標）

藤岡地区における

現在の「市民による地域づくりや市民活動が盛んなまち」の満足度 8.8%

将来の「市民による地域づくりや市民活動が盛んなまち」への期待度 32.7%

※第20回市民意識調査結果より



藤岡支所・交流館の完成イメージ



コミュニティーホール

◆事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する交付対象事業の効果の発現状況④

■ 関連する成果目標（定量的指標）

指標⑤：都市公園整備に伴うCO₂吸収量の増加

現況値（H28）0 kg-CO₂ ⇒ 目標値（H32）2,560.9 kg-CO₂

指標⑥：公園施設長寿命化計画に基づく、公園施設の更新率の拡大

現況値（H28）0 % ⇒ 目標値（H32）100 %

【目標達成に資する事業】

- ・吸収源対策公園緑地事業（明和公園ほか7公園）
- ・公園施設長寿命化対策支援事業（豊田市）

吸収源対策公園緑地事業（明和公園ほか7公園）



整備前



整備後

公園施設長寿命化対策支援事業（豊田市）



整備前



整備後

◆事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する交付対象事業の効果の発現状況④

■ 事業効果

- ・吸収源対策公園緑地事業においては、緑化の推進や環境負荷低減が図られ、地区住民および来訪者にくつろぎや憩いの場の提供することができた。ただし、CO₂吸収源である高木の植栽については、現整備計画期間からは見送ったため、次期整備計画での効果発現を図る。
- ・都市公園の継続的な機能維持のため公園施設の改築を実施し、適切な管理による安全・安心の確保を図ることができた。

■ 目標指標以外の事業効果（補完指標）

公園や緑地が身近にあり、自然とふれあえるまち ※第20回、21回市民意識調査結果より
23.4% ⇒ 24.8%
(第20回) (第21回)



豊田スタジアム
ラグビーワールドカップ2019開催会場

◆今後の方針

本整備計画の計画期間は、平成28～32年度であったが、より効果的に社会資本の整備を進めるため、平成29年度より全ての事業を別計画へ移行した。

このことにより、中心市街地の活性化や鉄道駅周辺の定住人口増加などの目標のほとんどは達成することができなかったが、本整備計画から移行した事業については、次期整備計画において確実に実施し、事業効果の早期発現を目指す。

◆事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制	事後評価委員会を開催し、評価を実施。
事後評価の実施時期	平成31年3月
公表の方法	豊田市 市街地整備課ホームページに記載 http://www.city.toyota.aichi.jp/shisei/gyoseikeikaku/toshiseibi/1014473.html